

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4291500041		
法人名	合同会社光		
事業所名	合同会社光 グループホーム輝		
所在地	長崎県佐世保市鹿町町土肥ノ浦21-7		
自己評価作成日	令和 3年 2月 1日	評価結果市町村受理日	令和3年3月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構		
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1		
訪問調査日	令和3年3月4日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・本人の意思を尊重した生活のお手伝いをする気持ち、特別なことをしない日常を過ごせるようにしています。</li> <li>・理学療法士による身体機能のチェック、リハビリ・運動のアドバイスを受けています。</li> </ul>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>管理者は『良いところがないのが良いところ』とホームに対する強い思いを持ち、入居者にとって在宅時と何も変わらない場所づくりと多くの選択肢を提示することで、入居者が自由に選べ、何事も強制しない支援を実践している。ホームには毎週理学療法士の訪問があり、機能回復や介助方法に関する助言を得ることで入居者の生活機能の向上に繋げている。また、医療機関を母体とし、同一法人内にも関連施設があることから緊急時や看取り期にも連携し対応することができている。食事は職員による手づくりで季節に沿った家庭料理を提供しており、入居者からも美味しいとの声があり好評である。現在はコロナ禍のため面会は自粛しているが、ホームは利便性の良い県道沿いの住宅地に立地しており家族等の面会にも便利である。不定期の来客に備え、玄関には検温器や消毒用スプレー、面会用の場所を設けるなど感染症対策を講じている。職員と管理者との信頼関係を築くとともにホーム管理者と法人の管理者双方が連携を十分に図ることで、入居者が安心して過ごせるホームとなっている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

ユニット名 グループホーム輝

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	年度目標を立て共通意識をもって取り組むようにしている。	理念を実践するための取り組みとして、ホームでは年度初めに『〇〇声掛け』を職員の年度目標に掲げている。〇〇に職員一人ひとりの思いを入れることで日々の支援目標としており、定例会で振り返りを行い、達成度合いに応じて次年度の目標を設定している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	できていない。	コロナ禍により地域との交流を自粛している状況に加え、地域祭りの見物や文化祭への作品展示など入居者の高齢化に伴いできていない現状である。尚、近隣の保育園園児が作った七夕飾りや鯉のぼりを保育士の方がホームへ持参し展示するなどの交流は継続できている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	できていない。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	できていない。	行政担当者へ運営推進会議の開催方法を問い合わせ、現在、運営推進会議のメンバーが出席しない書面会議の方法で開催しており、案内状には意見記入の用紙と返信用封筒を同封している。メンバーである地域包括支援センター職員より新型コロナウイルスの影響による入居者のストレス対策を伺いたいとの申し出があり、次回の会議で報告を行う予定としている。	コロナ禍の中、家族が入居者の日々の様子やホームの取り組みを確認できる機会が減っていることを踏まえ、運営推進会議録を家族にも配布できるよう検討することに期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	福祉事務所担当者との連絡は行っている。	市の窓口には福祉関係の手続き等で訪問しており、各種の申請関係書類の提出は支所に出向いている。行政からは新型コロナウイルス感染症ワクチン摂取に関する意向調査や、非常時の場合に入居者を受け入れできるかなどの問い合わせを通じて随時連絡や相談を行い、連携体制を整えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月の定例会において検討会議を実施。	ホームでは毎月の定例会とともに身体拘束廃止委員会を実施している。身体拘束適正化のための指針を作成しているが、議事録については未作成であったため、記録を残すことが望まれる。現在、入居者のケガ防止等を目的としてセンサーを使用する場合は、家族に説明し同意書を得るとともに介護計画にも記載し、計画見直し時や職員会議時にセンサーの使用状況を検討している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	お互いに言葉遣い、接し方について意見を出し合っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	できていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	改定、変更時は説明し同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時などに積極的に話を伺うようにしている。	現在、コロナ禍により家族との面会を自粛している状況であるが、家族がホーム利用料など支払いに来所した際や電話・メール等を通じて意見を交換している。意思表示困難な入居者の意向についてはホワイトボードを活用し把握するよう努めている。また、入居者本人及び家族より聴き取った情報は申し送りノート等に記入し、職員間で共有している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定例会、意見ノートでくみ上げるようにしている	ホームでは日常業務に関する気づきや提案等を職員が記入する意見ノートを活用して詳細に記録し、毎月開催する定例会議時や介護計画作成時に具体的に挙げることで運営に反映している。個人的な相談については管理者から職員へ気掛けて聴き取りを行っており、相談の内容によっては法人本部の部長と連携し意見の反映に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己評価等を含め反映できていると思う。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会等の研修参加で顔をつなげるようにしている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	時折上からの目線の発言等が気になることがある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	任せっきりにならないように施設での情報をできるだけ提供するようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	できていない。	現在、コロナ禍により馴染みの人や場との関係継続は自粛している。ホームでは入居後における入居者の情報について面会簿などで関係を把握し、家族に面会可否の確認を行った後、申し送りノートや個人記録に記入することで職員間で共有している。入居者が自宅へ宿泊する場合は家族へ車椅子の貸与や操作方法・介助方法等の助言を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず に利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている	それぞれをフォローするように配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	できていない。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	行っている。	不穏な行動がある入居者の原因について職員 間で意見を出し合い、本人の意向を尊重しつつ 原因となる行動の把握に努め、その方の気づ きを職員間で共有しながら入居者への支援に 活かしている。意思表示が困難な入居者には ホワイトボードによる筆談や声掛けに対する反 応等により判断し支援に活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に 努めている	行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	行っている。	ホームでは入居者個人別に記録できる申し送りメモを準備し、日常の気づきを記入することで介護計画の見直し時に活用している。入居者の担当職員がモニタリングやアセスメントを行い、事前に理学療法士も参加したサービス担当者会議を開催し介護計画の原案を作成した後、計画作成責任者が最終的に助言も含めて作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	足りないところもある		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	あまりできていない		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	行っている。	入居前からのかかりつけ医への受診も可能であるが受診は家族の同行を要するため、現在は入居者全員がホームの提携医をかかりつけ医としている。ホームには週1回訪問診療があり、理学療法士も毎週訪問している。歯科医については必要時に往診があり、その他の専門医については家族対応としている。緊急時は職員が受診に同行し、その場合は家族にも直接医療機関に来てもらうよう伝えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	行っている。	看取りについて、ホームで医療行為が必要となった時点で入院、または関連施設へ転所となる旨を指針をもとに入居時に家族へ説明している。看取り時期の判断や家族への説明についてはホーム提携医が行っており、母体医療機関や関連施設での受け入れもできるよう連携している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	あまりできていない		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	行っている。	年2回入居者参加型での避難訓練を実施し、内1回は消防署立ち会いのもとで実施しているが、近隣住民の参加は難しい状況である。ホームでは以前からの課題であった避難口の増設について、ホーム改築時に廊下の窓を腰窓から掃き出し窓に改装することでウッドデッキから外へ出ることができるようになった。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	なれ合い過ぎないように気をつけている。	職員は居室へ入室する際、ノックや声掛けを行うことで入居者のプライバシーに配慮しているが、職員の接遇・マナー研修については実施していない。現在、接遇・マナー研修の実施に向けて母体法人で外部講師を招いた研修計画を立案し検討している。入居者への言葉遣いで気づいた点は職員同士で注意し合っており、個人情報に記載した不要書類等はシュレッダー等を用いて破棄している。	管理者は職員の資質向上のために外部研修への参加が必要と理解しているが、コロナ禍により参加が難しい状況である。例えば母体法人にあるDVDを活用した内部研修や、ICT機器を活用した接遇・マナーに関するリモート勉強会の開催など、今後具体的に取り組むことを期待する。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	あまりできていない		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	行っている。	食事の際の食器・箸類については入居者の馴染みの物を持参してもらい、入居者の身体状況に応じて食器の工夫や食形態にも配慮している。ホームでは美味しく家庭的な食事を念頭に献立を作成しており、食材も地元から購入している。また、本人の嗜好にも柔軟に対応しており、誕生日や各種行事で入居者とともに献立を考えるなど、食事の楽しみにも配慮している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	行っている。	ホームの方針であるできる限りトイレで排泄することを念頭に、職員は定期的に声掛け・誘導を行っている。夜間も職員が定期的に見回り、ポータブルトイレでの排泄や尿取りパットの交換など支援している。また、尿取りパットやオムツの適正使用について職員間で随時話し合い、家族からも理解を得ている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	できていない。	入浴の際の湯温の設定は41℃とし、入居者の好みに合わせて追い焚きも可能である。入浴介助は職員1名で対応し、入居者1人あたり週2回入浴できるよう支援しており、日曜日以外は入浴ができるため、入浴拒否がある方には翌日の入浴も可能である。時には入浴剤を使用することで日々の入浴に変化を設けており、脱衣場には冷暖房器具を設置し、ヒートショック対策を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	あまりできていない	入居者の高齢化に伴い頻回な外出は困難な状況であるが、気候の良い日には玄関先のベンチで日光浴を楽しむ姿もあり、近隣の家庭との窓越しの交流も行うことができている。また、季節毎の花見でドライブに出掛け、車窓から眺める機会を設けている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	できていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	可能な方には行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	行っている。	ホーム改築に伴いウッドデッキを設けてベンチを設置したことで、天気の良い日には入居者のおやつ時間等に利用することができる。食堂兼リビングの壁面には様々な飾り付けを施し、ソファや椅子なども入居者の人間関係に配慮し配置している。加湿器・消臭剤などの臭気対策や、換気・採光等に配慮し、次亜塩素酸水を使用した清掃を行うことで清潔で明るい共用空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	行っている。	居室には母の日のプレゼントや家族写真、布団、テレビ、備品類等が持ち込まれており、その様子から入居前の暮らしぶりが窺える。ホームでは火気類・刃物類・高額品の持ち込みは不可とし、入居時に家族へ説明している。室内は早出の職員が清掃や室温・湿度の管理を行っており、定期的に換気を行うことで清潔感のある居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	行っている。		